

心が弾む夏休み

今井尚子さん
依田橋(28歳)



富士市に生まれ、富士市に育った私にとって、小さい頃から夏休みは暑くて長い休日という印象しかありませんでした。しかし、主人と結婚して4年。夏休みには、主人の実家がある新潟へ帰省するようになってから、夏休みが私に楽しい時を与えてくれるようになりました。

みんなが寝静まった頃、車を走らせて8時間、もうそこは私の小旅行地新潟です。小さな頃から、県外に

あまり出たことのない私にとって、目に入るもの、人の話す言葉すべてが新鮮で夏の暑さを吹き飛ばしてくれます。だから私は、ことしの夏休みも主人と3歳になる息子と3人で帰省します。それは、学校が休みになった子供が、親にせがんでどこかへ連れて行ってもらうときのように、心が弾む夏休みです。

わが家の年中行事

深沢三保子さん
伝法1丁目(36歳)

「ことしはどこへ行くの」夏休みが近づくと、子供たちが楽しそうに問いかけてきます。

わが家の夏休みの年中行事、キャンプの行き先を尋ねてくるのです。

5年前、丸火のファミリーキャンプへ参加、以来毎年夏になるとキャンプへ出かけるのが恒例です。

キャンプの楽しさは、出発前から始まります。計画を立てるのに始まり、毎年少しずつそろえるキャンプ



△キャンプ計画を練る深沢さん親子

用品の買物も楽しみの一つです。

去年のキャンプ地は能登、子供たちはテント張り、買い物、火おこしなど積極的に協力してくれ、自分たちで考え、助け合ってやることを覚えたようです。

家では見られない兄弟の結びつきなどキャンプを通して、子供たちのいろいろな面にも接することができました。これからもわが家の年中行事として続けたいと思っています。

「学校、家庭、それに地域が花いっぱいになったらステキだと思えます……。」と松本さん。第十一回緑化作文コンクールの中学校の部で、応募点数四十八点の中からみごとに緑いっぱい市民の会会長賞を受賞。

松本さんの通う吉原北中は、昨年から学校ぐるみで花いっぱい運動に取り組んでおり、その一つとして一人一鉢運動を実施。これは、松本さんが昨年、生徒会の役員に立候補したときの提案だです。作文は、学校あげての緑化運動と家庭



第12回 緑化作文コンクールで緑いっぱい市民の会会長賞を受賞

松本香子さん

吉原北中3年